

床に置くタイプのハープの構え方①



- ・ハープの傾きは、弦が地面に対しておおよそ垂直。
- ・右膝と肩でハープを支える。肩にハープの重みをかけすぎない。
- ・左膝はハープにつかない。
- ・椅子には浅めに座る。
- ・お尻の骨（坐骨）が座面にしっかりつく。



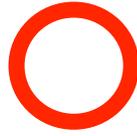
- ・椅子に深く座りすぎている。



- ・ハープを傾けすぎている。
肩にハープの重みがかかりすぎてしまう。



床に置くタイプのハープの構え方②



- ・右肘は軽く張る。
- ・右腕の一部は共鳴胴に触れる。
- ・左肘は軽く張る。
- ・右腕と違い、左腕は共鳴胴に触れない。



- ・右肘が下がりすぎ。
- ・左腕が共鳴胴に触れてしまっている。
- ・左肘が下がり、体にくっついてしまっている。



床に置くタイプのハープの高音部を弾く時の注意点



・腕だけを引き上げるのではなく、腰から体を右側に捻ったり、左足で踏ん張ったりして、体の前側に右肘があるようにする。



・腕だけを引き上げ、体の後ろ側に右肘が行ってしまう。

